



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2004.8

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話(03)3381-7656 FAX (03)3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

やっぱり憲法は変えるな！

「 8月に思う 」

核廃絶と軍縮を ! 日本が本気で発信せよ！

世界大戦が終わって(日本が無条件降伏)59年目の夏が過ぎました。今年も8月には広島や長崎の市長が戦争の悲惨さや核兵器の恐怖を、そして、平和の創造を世界に発信しました。秋葉市長はブッシュの独善主義を批判しました。伊東市長はアメリカ市民に、世界の若者に核廃絶を訴えました。

しかし、圧倒的な世界の核大国アメリカ(ブッシュ)は未臨界核実験を繰り返し、小型核開発を進めその行使さえ否定しません。

何千万人もの死傷者と世界の主要都市を瓦礫の山と化した戦争の20世紀を体験した人類は、21世紀こそ戦争のない地球の創造を決意したと思うのです。そのために核廃絶と軍縮への努力が世界の課題となっているのです。

凶暴なアメリカの蛮行を許すな ! 人類進歩の証として

21世紀に入って4年が経とうとしています。アメリカには資本の権化みたいなブッシュ政権ができています。日本には無知性的で理性の欠けらも感じられない小泉政権ができています。この二つの政権は明らかに歴史の歯車を逆転させています。残念なことに日米両国民はそれを許してきてしまいました。アメリカ・ブッシュはアフガニスタンを破壊し、昨年三月にはイラクを一方的に攻撃し破壊し、何万人も虐殺しながら占領を続けています。特に、イラクに対しては侵略攻撃の根拠を何一つ明らかにする事ができません。たとえ、イラクのフセイン大統領が独裁者であったとしても、そのことを理由に一つの主権国家をいかなる大国であっても攻撃し占領し資源や富を略奪していいはずは断じてありません。

にもかかわらず、21世紀初めの人間社会はこのアメリカの犯罪、横暴な強奪行為を止めることができません。

日本の軍事大国化ストップ！ 国民生活破壊・戦争阻止のために

日本では小泉政権ができて三年半が経ちました。言うまでもなく小泉政治は日本支配層の意の現れで

す。この間に日本の社会情勢が大きく変わりました。構造改革の強行による社会構造の歪みと軍事大国化への傾斜です。結果として憲法改悪への道です。幾つかの特徴があります。 は弱肉強食の論理によって貧富の差が拡大し多くの国民の生活が苦しくなっている(労働条件の引き下げ、社会保障制度の改悪、中小商工業の整理統合)。 は日本社会の荒廃です(小泉首相などの短絡的言動が社会全体の思考力を低下させ、軽薄、粗雑、粗暴となり強い者が勝つとした暴力的風潮の肯定)。 は監視社会と強権国家への流れ!(政治の貧困ゆえに増大する犯罪に対し、力でこれを封じようと監視カメラや警察権力を強化する)。

一方で対外政策は、世界戦略として本格的な「軍事経済大国」への道を歩み始めたと思います。あのアメリカの根柢なきイラク侵略を支持し、戦争参加へ急ハンドルを切りました。憲法違反の有事三法、イラク特措法、イラク復興支援法など次々と強行可決し、戦場のイラクへ自衛隊(陸海空)を派兵し、いまや多国籍軍にまで参加させています。

最近に至っては財界や防衛庁などが武器輸出や他国との共同開発まで主張しています。まさに、世界中に進出した日本の大企業が飽くなき富の蓄積めざし、ときには戦争も辞さず、その権益を守らんとすることが見えるというものです。

憲法改悪断固反対 命とくらしを守り、平和な 21 世紀人類社会のために

このような状況を背景にして明文改憲がタイムスケジュール化されてきたと言わざるを得ません。

自民党や公明党に加え野党?の民主党までが憲法改悪と構造改革を競い合っています。21 世紀の人間社会に果たさなければならない日本の歴史的使命は、こんなプチアメリカ的な軍国日本では無いはずです。

戦争の加害者として被害者として、その悲惨さを知る日本が進むべき道は、平和憲法を外交の武器にして、世界に核廃絶と軍縮を訴え、戦争のない平和な地球の創造をめざすことではないでしょうか!

いまこそ、憲法改悪を許さないため、真剣に人から人へ「反対」の声を広めましょう。

(04 年夏 新社会党都本部委員長 江原 栄昭)